

未就学児の交通安全 ―ガイドブックで命を守ろう!―

メンバー(学生):豊橋創造大学短期大学部 幼児教育・保育科 1年(2023年度)

小原綾華(代表)、鈴木こよみ、藤田真子、笠崎聡史、三浦絢音、渡邊真未

コーディネーター(教員):豊橋創造大学短期大学部 幼児教育・保育科 葛谷潔昭

①目的

私たちメンバー一同は子どもたちの交通事故の現状を知り、悲しい事故が起きるのを防ぐために出来る事はないかと考えました。こどもは、成長とともに行動範囲が広がっていきます。しかし、交通安全について、こどもだけでは学ぶことが難しいと感じます。そこで、大人とこどもと一緒に楽しく学ぶことは、子どもたちが安全に安心して暮らしていくためには、重要なことだと思いました。

そこで、私たちは、こどもたちが通う、保育所、こども園などの先生や、親御さんと園児の皆さんが、一緒に交通安全について学ぶことができる教材を通して、こどもたちも、その周りにいる大人たちも安心して生活できる社会を目指していければと思います。また、交通安全だけでなく、それを学ぶことを通して、命の大切さを理解してもらいたいと思います。私たちは、それをボランティア活動の一環として実施し、地域社会に貢献をすることを目指したいと思います。

②内容

親子で交通安全の大切さを知ってもらうために、未就学の子どもにも分かりやすい教材(交通安全ガイドブック)を作成します。クイズや間違い探しを取り入れた内容で制作し、さらにその教材に関連したオリジナルのペープサートや手遊びの動画も作成する予定です。私たちが授業で学んできたことを最大限に生かし、子どもたちが楽しく学んでいける内容にします。また、手遊びやペープサートも作成したいと考えています。これらの教材の作成に当たっては、こどもの歩行者がかかわる事故の内容や件数について、こどもの特性と交通安全について、豊橋市役所の方などのお話もお聞きして、学習をした上で作成したいと思います。

制作したガイドブックは、保育所、こども園、市の図書館などに寄贈するだけでなく、実際の保育現場で実践をしたいと思います。

③期待される成果等

親子で学ぶことで、こどもたちだけでなく、保護者の方にも交通安全の知識と意識が深まると考えます(例えば、こどもたちには、信号の渡り方、飛び出し注意など、歩行者の交通ルールを学んでもらえる。また、保育者の方には、事故の起こりやすい環境を理解してもらい、自動車の交通ルールの大切さを知ってもらえる。自動車の運転者は、こどもも含めた歩行者の命も預かっていることが理解できる)。交通安全の理解だけでなく、保護者と子ども、園児と保育者の交流促進のツールとしても活用できるとよいと思います。大人とこどもの信頼関係も深まり、より交通安全の効果も上がると考えられます。

そして、ボランティアとして積極的に活動することと、教材を寄贈することで、地域社会にも貢献することができると思います。